

～幼保小の子どもたちの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第8号

令和6年7月発行

京都市教育委員会 学校指導課

幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

令和6年度は、令和7年度からの幼保小の連携・接続の実施に向けた準備期間と捉え、取組を進めましょう！

今、何を進めるのか？

子どもの姿から語り合うコミュニティーづくり

つながり合う
関係づくり

連携・接続先の就学前施設を決定しましょう！！

～幼保小連携・接続窓口担当者一覧を活用して～

管理職を中心とした取組

〈参照：令和6年度「幼保小連携・接続窓口担当者一覧」について(Y904B23)6月5日付〉

●幼保小連携・接続窓口担当者一覧から

自校の校区内の就学前施設の意向を確認し、**連携・接続先を決定！**

校区に、就学前施設がない場合は？

本校は、どこの就学前施設と行う？

原則、連携・接続の範囲は小学校区内。



中学校区内の他の小学校と相談して連携・接続する就学前施設を調整。また、同じ中学校区内の他の小学校と一緒に中学校区内の就学前施設と連携・接続を推進することも可能。

本校は小規模校で、校区内の多数の就学前施設との連携・接続は難しい…

本校は、以前から校区外のD園と連携を進めているけど…

例えば、子ども同士の交流については、ある交流はA園と、別の交流はB園と行い、来年度は違う園と実施する等調整する。ただし、公開授業や公開保育等の教育・保育の相互理解は全施設と行う等、校区内の就学前施設と話し合う。

校区内の施設との連携に加え、D園と連携の継続も可能

幼保小の架け橋プログラムの理解促進、関係づくり

校内研修をしましょう！！

全教職員、全校体制へ

幼保小連携・接続主任を核とした学校体制全体での取組

●「令和6年度幼保小連携・接続主任研修会Ⅰ」【SMART POTAL ピックアップ→ 幼保小架け橋プログラム事業】を視聴し、**幼保小の架け橋プログラムについて理解**を深める。

●**校内研修**を実施する。

全教職員で幼保小の架け橋プログラムの意義や重要性を理解

架け橋期の子どもたちの発達の理解

例)・近隣の就学前施設の保育を参観し、幼児教育を知る

・幼児期から育まれる非認知能力について学ぶ

・京都市の先進校の取組から連携・接続について学ぶ

・幼児教育と小学校教育のつながりや各教科における学びのつながりを知る

自校の今年度のスタートカリキュラムについての振り返り、次年度へのカリキュラム・マネジメント

参考資料：「幼保小連携・接続主任研修会Ⅰ」に記載、文科省動画コンテンツ等

●連携・接続先が決定したら、就学前施設の窓口担当者等との関係づくりを。

・連携・接続先と(年間)行事予定や学校だより、園だより等の配布物の交流等

・次年度に向けて計画の立案。



進め方等、ご相談は架け橋コーディネーターに！ 問い合わせ先：学校指導課 075-223-3746

幼小接続講座(5・24)の報告

次回 12月6日(金)15:45~



下京雅小学校 川崎哲兵教諭による「1年生と5歳児の

交流から考える架け橋期の教育」の実践発表が行われました。以下は生活科の交流事例です。

- ・地域の公立幼稚園だけでなく、私立幼稚園、保育園とも交流を広げたこと
- ・交流前のお誘いメッセージやメンバー写真の提示等子どもの心が動かしかけをしたこと
- ・交流当日、子どもが出会えた喜びを味わいながらの自己紹介や踊りを楽しむ等親しみを持ち、心に残る交流となったこと
- ・事後研修で互恵性の有無について振り返る取組をしたこと

これらの実践から、子どもの思いを尊重して交流を計画したことや、交流で得られたことを確認し、さらに持続可能な互恵性のある関わりへという PDCA サイクルを通して、相手意識や目的意識をもつことで、心が動き、工夫が生まれ、質の高い学びになるという交流の価値を見出したことが紹介されました。また、5歳児にとって安心感のある半日入学の工夫や、子どもの発達や学びのつながりについて協議する等の幼保小の合同研修会の取組についても具体的に説明されました。

その後のグループ協議では実践発表からの気づきや普段の自校園の取組、これからできそうな連携等、活発な話し合いがなされました。

京都市内の就学前施設の教職員を含め、168名の参加がありました。小学校からは幼保小連携・接続主任の参加も多く、架け橋プログラムについて学びたいという思いの表れと考えられます。参加者の振り返りでは、実践発表・協議から「できることからやってみよう」「できそうなことが見つかった」等の声が多く、有意義な講座となりました。

ぜひご参加くださいね!



こどもみらい館共同機構研修会

乳幼児期の子どもの発達や保育・幼児教育を知り、子どもの育ちや学びをつなぐ研修。

日時 8月1日(木)15:00~17:00

対象 保幼小教職員

内容 講演・グループ協議

講演テーマ

「私たちの保幼小連携・接続へ
~子どもの具体的・直接的体験をつなげよう~」

講師 京都教育大学 古賀松香教授

申込 7月18日(木)~25日(木)

こどもみらい館 HP より

*こどもみらい館から7月に各校園に通知予定

~第一次案内~

京都市幼保小架け橋シンポジウム

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、架け橋期の教育・保育の質の向上を図るため、これまでの研究・実践の成果や課題、具体的な取組内容、今後の展望等を発信。

日時 令和7年2月14日(金)9:30~17:00(予定)

第1部 分科会<<公開授業・公開保育・研究報告>>

(午前)・御所南小ブロック・下京雅小ブロック・竹田小ブロック

第2部 全体会(ロームシアター京都 サウスホール)

(午後)・京都市における幼保小の架け橋プログラム取組概要

・研究指定校園の実践発表

・パネルディスカッション

[京都教育大学古賀松香教授、研究ブロック代表、小学校長
会代表、就学前施設団体代表]

・基調講演[白梅学園大学 無藤 隆 名誉教授]

*申込方法は第二次案内(11月予定)にて

コラム

なかにしサンゴの 幼分補給

親子で竹馬づくり〜5歳児の発達にふさわしい教材として
休日参観、親子で竹馬をつくる姿を見てきました。「手作りのおもちゃ」の



素材も、楽しそうに共同作業する家族の姿もほっこりと温かな雰囲気でした。子ども達は嬉しそうで…。

5歳児になぜ竹馬? 「ちよつと頑張らないと乗れない竹馬」は、ちよつと難しいことに挑戦する心を育てます。もちろん、すぐに乗れなくて葛藤したり、諦めたり、時には指の間の皮がむけたり、乗れるようになった友達に憧れたり、悔しかったり、失敗するのが恥ずかしくて乗ろうとしなかったり…。先生は、こんな様々な姿を見せる子どもをまさしく支え、背中を押し、乗れるようになったら共に喜び合います。乗れるようになった子どもは、歩く歩数を伸ばすこと、壁に持たれずに乗れるようになること、坂道や段のコースを作って歩いたり、竹馬ダンスが生まれたり、竹馬サッカーをしたり、新たなめあてを自分で考え、挑戦します。苦労して乗れるようになった子どもは、一生懸命挑戦する仲間にはコツを教えたり、励ましたりして応援します。昔々の「竹馬の友」は今も健在です。

技能の向上や、考え、工夫した新たな挑戦、様々な心の経験もできる竹馬は5歳児の可能性を拓く教材です。



中西 昌子(なかにし しょうこ)

京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭、教頭、
竹田幼稚園長、市教委首席指導主事
を経て、平成三十年度から現職。